

日本と中国で出版された日本語教科書の比較研究 —収録語彙の側面から—

呂 建輝*

1. はじめに

日本語教育用の教科書に関する研究はこれまでに多く見られ、語彙、文法、歴史など様々な観点から考察がなされている。語彙の視点から考察するものとして、伊藤・岡本（2009）、松本（2020）が挙げられる。伊藤・岡本（2009）は、立命館アジア太平洋大学のオリジナル日本語教科書の収録語彙を対象に、旧日本語能力試験出題基準をもとに調査したものである。その結果、1級語彙のうち2670語が教科書に収録されていないことが明らかになり、これを基に授業外学習の指針が策定できるものとした。松本（2020）は、中級日本語教科書に収録されている副詞について調査したものである。「中級レベルの語彙を中心にしつつ、一定数の上級及び初級語彙が取り上げられている」ことが明らかになった。

海外で使用されている日本語教科書を調査したものとして、趙・高中（2019）が挙げられる。中国における日本語教育の現状を概観した上で、中国にいる日本語学習者を対象に意識調査を行ったものである。その結果、日本語学習に使用している日本語教科書と、自分に最も役立つ教科書ともに『みんなの日本語』が圧倒的に多数であることが明らかになった。

一方、教科書収録語彙の難易度階層関係を体系的に調査した研究は未だに少なく、伊藤・岡本（2009）以来はほとんど見られない。また、日常的に使用される「基礎語彙」（非専門語彙）と、特定の領域においてよく使用される「基本語彙」（専門語彙）という語彙の専門性の観点から考えれば、初級の段階では基礎語彙を、中上級において徐々に専門の基本語彙が増えることが予想される。しかし、語彙の専門性という観点から考察する研究は未だに見られていない。さらに、日本語で出版された教科書に関する研究は数多く見られるものの、海外で出版された教科書との比較分析は未だに少ない現状である。

本研究では、語彙の難易度・専門性という側面から、日本と中国で出版された日本語教科書の比較分析を行い、教科書の収録語彙という視点から日本と海外の日本語教育の実態の違いを考察する。

2. 研究手法

2. 1. 使用教科書

本研究では、2024年現在、日本と中国で幅広く使用されている日本語教科書を調査対象とする。

* 岡山大学学術研究院社会文化科学学域特任助教

日本で出版された教科書は、現在多くの日本語教育機関で基礎教科書として使用されているといわれる『みんなの日本語』を対象にした。英保ほか（2014）が関西外国語大学で実施した調査から、当大学指定の教科書を除けば、『みんなの日本語』は日本で出版された教科書の中で最も多く使用されている教科書であることが分かっている。

中国で出版された教科書は、『新経典日本語基礎教程』を対象にした。この教科書は、国際交流基金（JF）が公表した「日本語教育国・地域別情報 2023年度 中国」でも紹介されており、JF 日本語教育スタンダードを参照した教科書である。その出版に関わった外語教学与研究出版社は中国語版『みんなの日本語』にも携わっていた出版社である。また、この「新経典日本語」シリーズには『新経典日本語高級教程』（上級）も出版されていることから、『新経典日本語基礎教程』は初中級学習者向けの教科書であることがわかる。これがまさに、初中級者向けの『みんなの日本語』に対応する形である。なお、『みんなの日本語』は初級Ⅰ、初級Ⅱ、中級Ⅰ、中級Ⅱの四冊に分かれているが、これに対応するように『新経典日本語基礎教程』も第一冊、第二冊、第三冊、第四冊の四冊からなっている。以上の理由から、中国で出版された教科書の中で、『みんなの日本語』との比較研究として最適な教科書であると考えられるため、本研究の調査対象に選定した。

以下では『みんなの日本語』（初級Ⅰ～中級Ⅱの四冊）のことを『みんな日』と、『新経典日本語基礎教程』（第一冊～第四冊の四冊）のことを『新経典』とよぶ。

2. 2. 語彙の収集

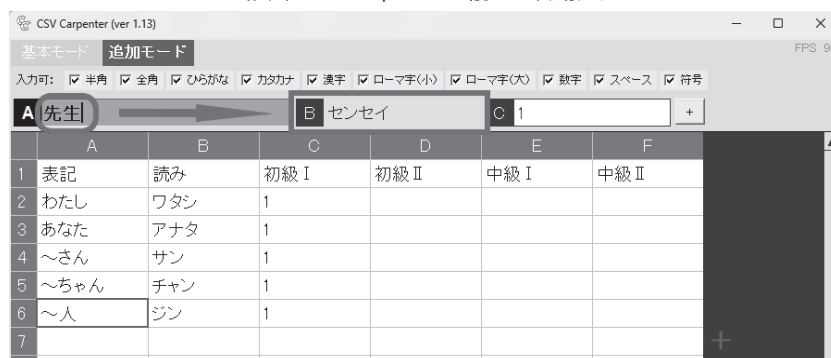
次に、『みんな日』『新経典』より語彙を収集して語彙表を作成する。『みんな日』には翻訳・文法解説本があり、中には各課の語彙リストがあるため、これを基に『みんな日』の語彙表（以下「M表」とよぶ）を作成する。『新経典』については、各課に「基础会话」（基礎会話）、「应用会话」（応用会話）、「正文」（本文）、「句型」（文型）、「注释」（注釈）、「练习」（練習）といったパートがあり、それぞれのパートの後部に単語リストがある。それらの単語リストを基に『新経典』の語彙表（以下「C表」とよぶ）を作成する。

上述のように、本研究では各課の単語リストに挙げられているもののみを考察対象としている。データの正確性を最大限に確保するため、OCRを使わず、人間によるデータ入力作業で語彙表の作成をした。これには膨大な時間を要すると予想されるため、入力作業の効率化を図るべく、筆者が独自で開発したデータベース構築ツールCSV Carpenterを使用した。

CSV Carpenterは、CSV型データベースを効率よく作成するために開発されたWindows専用のアプリである。IMEの文字変換規則を基に、文字入力の際に押されたキーを取得し、カタカナに変換して出力することにより、単語の読みの自動入力機能を実現した（図1）。また、何冊目の何課に初めて出現したかという単語の初出情報などをあらかじめ設定しておくことで、語彙情報の自動入力を実現した（図2）。さらに、データ重複防止機能が付いており、同音同形の言葉が二度入力され

たときには警告メッセージが表示される（図3）。以上の機能の実装により、データ入力の効率および正確性は大幅に向上した。

〈図1〉 CSV Carpenter : 読みの自動入力



〈図2〉 CSV Carpenter : 初出情報の自動入力



〈図3〉 CSV Carpenter : データ重複の防止



以上の方法で語彙を収集した結果、計5,719語のM表と、計5,147語のC表が完成した¹。『みんなの日』『新経典』には多義語が多く見られ、また、特に初級語彙にはひらがな表記も多く見られるため、意味を特定するため、必要に応じてM表、C表で該当見出し語に対して意味用法に関する注記を行った。なお、単語リストで示される意味用法と本文における意味用法に齟齬がある場合は、本文のほうの意味用法を基準に注記を行った。

2. 3. J-CLIDへの導入

J-CLIDは、筆者の率いる研究チームが開発した、複数の語彙表の間で語彙情報の横断検索ができる統合型日本語語彙データベースである。J-CLID:C4バージョンでは、「日本語教育語彙表」（以下N表とよぶ）、「日本語を読むための語彙データベース（VDRJ）」（以下V表とよぶ）、「日中対照漢字語データベース（JKVC）」（以下J表とよぶ）、「教科書コーパス語彙表」（以下K表とよぶ）の4表を収録している²。

本研究でJ-CLIDを使用する理由は2つある。一つは、語彙の信用性チェックのためである。J-CLIDでは、複数の語彙表に収録した語彙でなければ有効語彙に認定されないという手法を用いることで、収録すべき語彙としての信用性が保証されている。教科書に収録されている語彙なら基本的に信用性が高いとは考えられるが、一方、「どうぞよろしくお願いします」「失礼ですが～」といった文型的な表現は語彙として認定してよいかどうかなど、研究者によって判断がまちまちなケースもよくある。こういった語彙も含め、M表、C表の全項目を一度J-CLIDにかければ、語彙としての妥当性が客観的に評価され、不要の項目は自動的にふるい落とされる。

もう一つの理由は、J-CLIDから所収の各語彙表から語彙情報を一度に取得できるからである。本研究では主に語彙の難易度と専門性という二つの側面から考察を行うが、語彙の難易度については、V表にある旧日本語能力試験出題基準による難易度分け（級）情報、およびN表にある語彙の難易度情報に参照できる。語彙の専門性についてはV表にある「人文・芸術」「社会科学」「自然科学（理学・工学系）」「自然科学（生物・医学系）」の4領域の特徴度レベル情報、およびK表にある小中高校の「国語」「数学」「理科」「社会」「外国語」「技術家庭」「芸術」「保健体育」「情報」「生活」ならびに「全教科」の特徴度情報に参照できる。本来なら、M表・C表の収録語彙を一つ一つV表・N表・K表に当て、2表×3表で計6回の語彙の同定作業を行わなければならなかったのだが、J-CLID:C4はすでにV表・N表・K表の間の語彙同定作業を済ませた統合表になっているため、2表×1統合表で計2回の語彙同定作業で済むことになる。

以上の利便性から、J-CLIDを使用し、M表・C表の収録語彙をJ-CLIDに取り入れる同定作業を行

¹ 『みんなの日』と『新経典』の単語リストには、一部「こちらは～さんです。」のような「文型」と思われる表現も見られるが、これらは語彙範疇のものではないと考え、データ入力時に除外した。

² J-CLID:C4の詳細は呂（2024）を参照。

う。基本的には、表記・読みともにJ-CLID:C4の見出し語に一致する言葉を同一語に認定し、それ以外の言葉はJ-CLID:C4に新規追加する。但し、読みが一致していれば、表記が違っていても、語彙を特定するための注記情報を参考にして、同一語に認定することがある（例：「子ども」と「子供」など）。なお、J-CLID:C4所収のN表・V表・J表・K表では基本的に多義語による細分類は行われていないので、同定作業において多義語が出た場合、J-CLID:C4の該当見出し語に対して分割処理を行ってから、意味用法に関する注記を行う（例：「（給料が）出る」と「（バスが）出る」など）。但し、表記が複数あっても同じ意味で使用されるものに関しては、異表記のものとして一つの見出し語にまとめてから同定作業を行う（例：チェックの意の「見る」と「診る」）。

以上の方法でM表・C表に対する同定作業を行った結果、M表5,719語のうち計4,694語、C表5,147語のうち計4,776語がJ-CLIDにより有効語彙に認定された。以下3節ではM表有効語彙に対して、4節ではC表有効語彙に対して考察を行う。さらに5節ではM表とC表の比較分析を行う。

3. 『みんな日』収録語彙の考察

3. 1. 語彙の難易度

〈表1〉は、J-CLID所収V表に基づいて各級のM表有効語彙の数（同義語を含まない、以下同様）を割り出したものである。初級Ⅰは4級の語彙を中心に、初級Ⅱは3級～2級の語彙を中心に、中級Ⅰは2級の語彙を中心に、中級Ⅱは2級語彙を中心としながら1級語彙もある程度収めた形で収録していることがわかる。また、合計値を見ると、級ありの語彙数は初級Ⅰから中級Ⅰまでやや減少傾向にあるが、中級Ⅱになると急増していることがわかる。

〈表1〉 J-CLID所収V表に基づいた各難易度の語彙数内訳（みんな日）

V表 旧基準	[日] みんな日 語数				
	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級Ⅰ	中級Ⅱ	合計
4級	417	114	10	6	547
3級	130	253	49	22	454
2級	61	206	322	673	1262
1級	7	24	53	336	420
合計	615	597	434	1037	2683

〈表2〉は、J-CLID所収N表に基づいて各難易度のM表有効語彙の数を割り出したものである。初級Ⅰは初級前半～初級後半の語彙を、初級Ⅱは中級前半の語彙を、中級Ⅰは中級前半～中級後半の語彙を、中級Ⅱは中級後半の語彙を中心に収録していることがわかる。また、合計値を見ると、初級Ⅰから中級Ⅰまではやや減少傾向にあるが、中級Ⅱになると急増する。

〈表2〉J-CLID所収N表に基づいた各難易度の語彙数内訳（みんな日）

N表 難易度	〔日〕 みんなの日本語 語数				
	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級Ⅰ	中級Ⅱ	合計
初級前半	304	27	3	2	336
初級後半	314	172	43	20	549
中級前半	147	399	243	260	1049
中級後半	22	132	251	941	1346
上級前半	2	13	48	383	446
上級後半	3	4	5	42	54
合計	792	747	593	1648	3780

〈表1〉〈表2〉を合わせて考えると、『みんな日』各冊の難易度階層として、初級Ⅰの収録語彙は初級程度、初級Ⅱの収録語彙は初級から中級への入り渡り程度、中級Ⅰの収録語彙は中級程度、中級Ⅱの収録語彙は中級から上級への入り渡り程度のものであると考えられる。中級Ⅱには上級語彙も少し導入されていることは確認できるものの、数が少なめであるため、全体として中級という位置づけは妥当であると考えられる。また、語彙数に関しては、中級Ⅱになると急に増加している現象も観察され、学習段階による語彙量の変化が読み取れる。

3. 2. 語彙の専門性

〈表3〉は、J-CLID所収V表に基づいて各領域のM表有効語彙の数を割り出したものである。「人文・芸術」「社会科学」「自然科学（理学・工学）」「自然科学（生物・医学）」の4分野でそれぞれ、領域特徴度レベルに数値（1、2、3）が入ったものは1としてカウントして計算したものである。「全分野」欄は、4分野のうち1つでも領域特徴度レベルに数値が入っていれば1としてカウントして計算した（V表の専門語彙数の計算方法は以下同様）³。〈表3〉からわかるように、初級Ⅰから中級Ⅰまで、専門性のある語彙の数は緩やかに増えていくが、中級Ⅱになると急増する。

〈表3〉J-CLID所収V表に基づいた各分野の語彙数内訳（みんな日）

V表 領域	〔日〕 みんな日 語数				
	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級Ⅰ	中級Ⅱ	合計
人文・芸術	98	123	165	590	976

³ 4分野のうち、複数の領域特徴度レベルに数値が入ったものもあるため、「全分野」の数値は4分野の合計値より小さい。

社会科学	97	115	192	669	1073
理学・工学	126	135	174	530	965
生物・医学	109	132	146	535	922
全分野	254	279	318	1082	1933

〈表4〉は、J-CLID所収K表に基づいて各領域のM表有効語彙の数を割り出したものである。「国語」「数学」「理科」「社会」「外国語」「技術家庭」「保健体育」「情報」「生活」の9教科でそれぞれ、「小中高_（教科名）_特徴度」の数値がプラス値の（0より大きい）ものを1としてカウントして計算したものである。「全教科」欄では、「小中高_全教科_特徴度」の数値が0より大きいものを1としてカウントした（K表の専門語彙数の計算方法は以下同様）⁴。〈表4〉からわかるように、初級Ⅰから中級Ⅰまでは、語彙の専門性に大きな変化は見られないが、中級Ⅱになると専門性のある語彙が急増する。

〈表4〉 J-CLID所収K表に基づいた各分野の語彙数内訳（みん日）

K表 教科	〔日〕 みん日 語数				
	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級Ⅰ	中級Ⅱ	合計
国語	292	263	212	491	1258
数学	107	103	55	142	407
理科	120	158	122	354	754
社会	141	162	171	562	1036
外国語	255	193	173	337	958
技術家庭	200	227	183	523	1133
芸術	193	159	143	399	894
保健体育	163	212	156	442	973
情報	118	125	139	325	707
生活	136	83	23	30	272
全教科	212	231	214	625	1282

以上の〈表3〉と〈表4〉とでは、初級Ⅰから中級Ⅰまでは専門性のある語彙の増減傾向がやや異

⁴ 「小中高_全教科_特徴度」は、各教科の「小中高_（教科名）_特徴度」を合算したものではない。各教科の「小中高_（教科名）_特徴度」に0より大きいものがあったとしても、「小中高_全教科_特徴度」は0またはマイナス値になる可能性がある。

なるものの、中級Ⅱになる専門性のある語彙の数が急増することは一致している。『みんな日』中級Ⅱには多くの専門語彙が導入されていると言える。

4. 『新経典』収録語彙の考察

4. 1. 語彙の難易度

〈表5〉は、J-CLID所収V表に基づいて各級のC表有効語彙の数を割り出したものである。第一冊では4級の語彙を中心としながら、3級・2級の語彙も多く取り入れている。第二冊では2級の語彙が中心だが、3級の語彙も多く入っている。第三冊では2級の語彙を中心としながら、1級の語彙も多く取り入れている。第四冊では2級・1級の語彙がほぼ同程度で収録されている。また、合計値を見ると、第一冊は最多の836語となり、第二冊～第四冊はほぼ同程度のものであるといえる。

〈表5〉 J-CLID所収V表に基づいた各難易度の語彙数内訳（新経典）

V表 旧基準	[中] 新経典 語数				
	第一冊	第二冊	第三冊	第四冊	合計
4級	418	58	8	2	486
3級	226	156	30	16	428
2級	172	342	408	265	1187
1級	20	88	221	228	557
合計	836	644	667	511	2658

〈表6〉は、J-CLID所収N表に基づいて各難易度のC表有効語彙の数を割り出したものである。第一冊は初級前半～中級前半の語彙を幅広く収録しており、第二冊は中級前半～中級後半の語彙をメインに収録している。第三冊では中級後半の語彙を中心としながら上級前半の語彙も数多く収録されている。第四冊では中級後半～上級前半の語彙が同程度で収録されている。合計値では、第一冊から第四冊までの間で語彙数には大きな変化が見られない。

〈表6〉 J-CLID所収N表に基づいた各難易度の語彙数内訳（新経典）

N表 難易度	[中] 新経典 語数				
	第一冊	第二冊	第三冊	第四冊	合計
初級前半	269	18	1	0	288
初級後半	360	89	14	5	468
中級前半	313	368	176	81	938

中級後半	104	324	504	430	1362
上級前半	15	48	283	355	701
上級後半	1	5	26	52	84
合計	1062	852	1004	923	3841

以上の〈表5〉〈表6〉を合わせて考えれば、『新経典』の第一冊では初級から中級までの語彙を幅広く学習し、第二冊では中級程度の語彙を学ぶ。第三冊ではやや上級よりの中級語彙を学び、第四冊では中級と上級の間程度の語彙を学習する。第三冊と第四冊の間では、語彙難易度の差が小さいことがまずわかる。また、どの学習段階においてもほぼ同等の語彙量が観察されることも注意したい。これにより、第一冊の段階ですでに相当数の語彙を学習しており、中級語彙までカバーする形になるのだと考えられる。

4. 2. 語彙の専門性

〈表7〉は、J-CLID所収V表に基づいて各領域のC表有効語彙の数を割り出したものである。第三冊になると専門性のある語彙が増え、第一冊と第二冊、第三冊と第四冊の間には大差は見られない。

〈表7〉 J-CLID所収V表に基づいた各分野の語彙数内訳（新経典）

V表 領域	[中] 新経典 語数				
	第一冊	第二冊	第三冊	第四冊	合計
人文・芸術	134	166	393	360	1053
社会科学	158	201	322	348	1029
理学・工学	171	190	281	299	941
生物・医学	172	176	314	273	935
全分野	345	365	618	626	1954

〈表8〉は、J-CLID所収K表に基づいて各領域のC表有効語彙の数を割り出したものである。第三冊になると専門性のある語彙が増加していることがわかる。

〈表8〉 J-CLID所収K表に基づいた各分野の語彙数内訳（新経典）

K表 教科	[中] 新経典 語数				
	第一冊	第二冊	第三冊	第四冊	合計
国語	394	278	357	296	1325

数学	147	93	78	68	386
理科	174	122	210	199	705
社会	195	147	346	289	977
外国語	339	215	205	144	903
技術家庭	276	220	312	216	1024
芸術	256	143	287	213	899
保健体育	271	220	268	178	937
情報	171	163	185	132	651
生活	163	51	31	9	254
全教科	282	221	375	288	1166

以上の〈表7〉〈表8〉を合わせて考えれば、『新経典』の第二冊と第三冊の間には隔たりがあり、第三冊になると語彙の専門性が上がるといえる。

5. 『みんな日』と『新経典』の比較

5. 1. 語彙の難易度

〈表9〉は〈表1〉と〈表5〉のうち「合計」列をピックアップして並べたもので、〈表10〉は〈表2〉と〈表6〉のうち「合計」列をピックアップして並べたものである。〈表9〉〈表10〉からわかるように、『みんな日』と『新経典』の間で、級・難易度ありの語彙数には大差が見られない。一方、各級・難易度の内訳を見ると、『みんな日』には初中級の語彙がやや多めで、『新経典』には上級の語彙が多い。

〈表9〉J-CLID所収V表に基づいた各難易度の語彙数等の比較（全体）

V表 旧基準	V表 総語数	[日] みんな日：全冊		[中] 新経典：全冊		語数比 [中]／[日]
		語数	割合	語数	割合	
4級	674	547	81.2%	486	72.1%	0.89
3級	594	454	76.4%	428	72.1%	0.94
2級	3238	1262	39.0%	1187	36.7%	0.94
1級	2744	420	15.3%	557	20.3%	1.33
合計	7250	2683	37.0%	2658	36.7%	0.99

〈表10〉J-CLID所収N表に基づいた各難易度の語彙数等の比較（全体）

N表 難易度	N表 総語数	〔日〕 みる日：全冊		〔中〕 新経典：全冊		語数比 〔中〕／〔日〕
		語数	割合	語数	割合	
初級前半	409	336	82.2%	288	70.4%	0.86
初級後半	747	549	73.5%	468	62.7%	0.85
中級前半	2151	1049	48.8%	938	43.6%	0.89
中級後半	5845	1346	23.0%	1362	23.3%	1.01
上級前半	5721	446	7.8%	701	12.3%	1.57
上級後半	1412	54	3.8%	84	6.0%	1.56
合計	16285	3780	23.2%	3841	23.6%	1.02

次に、『みる日』と『新経典』の各冊の比較を見てみる。〈表11〉は〈表1〉と〈表5〉のうち、『みる日』の「初級Ⅰ」と『新経典』の「第一冊」の列をピックアップして並べたもので、〈表12〉は〈表2〉と〈表6〉の同列をピックアップして並べたものである。〈表11〉〈表12〉からわかるように、級・難易度ありの語彙数は明らかに『新経典』のほうが多い。そのうち、初級の語彙数はほぼ変わらないが、中上級の語彙数は『新経典』に多い。

〈表11〉J-CLID所収V表に基づいた各難易度の語彙数等の比較（初級Ⅰ vs. 第一冊）

V表 旧基準	V表 総語数	〔日〕 みる日：初級Ⅰ		〔中〕 新経典：第一冊		語数比 〔中〕／〔日〕
		語数	割合	語数	割合	
4級	674	417	61.9%	418	62.0%	1.00
3級	594	130	21.9%	226	38.1%	1.74
2級	3238	61	1.9%	172	5.3%	2.82
1級	2744	7	0.3%	20	0.7%	2.86
合計	7250	615	8.5%	836	11.5%	1.36

〈表12〉J-CLID所収N表に基づいた各難易度の語彙数等の比較（初級Ⅰ vs. 第一冊）

N表 難易度	N表 総語数	〔日〕 みる日：初級Ⅰ		〔中〕 新経典：第一冊		語数比 〔中〕／〔日〕
		語数	割合	語数	割合	
初級前半	409	304	74.3%	269	65.8%	0.88
初級後半	747	314	42.0%	360	48.2%	1.15
中級前半	2151	147	6.8%	313	14.6%	2.13

中級後半	5845	22	0.4%	104	1.8%	4.73
上級前半	5721	2	0.0%	15	0.3%	7.50
上級後半	1412	3	0.2%	1	0.1%	0.33
合計	16285	792	4.9%	1062	6.5%	1.34

〈表13〉は〈表1〉と〈表5〉のうち、『みんな日』の「初級Ⅱ」と『新経典』の「第二冊」の列をピックアップして並べたもので、〈表14〉は〈表2〉と〈表6〉の同列をピックアップして並べたものである。級・難易度ありの語彙数はほぼ同じレベルで『新経典』のほうがやや多い程度である。ただ、中級前半までの語彙は『みんな日』に多く、中級後半以上の語彙は『新経典』に多い。

〈表13〉 J-CLID所収V表に基づいた各難易度の語彙数等の比較（初級Ⅱ vs. 第二冊）

V表 旧基準	V表 総語数	[日] みんな日：初級Ⅱ		[中] 新経典：第二冊		語数比 [中]／[日]
		語数	割合	語数	割合	
4級	674	114	16.9%	58	8.6%	0.51
3級	594	253	42.6%	156	26.3%	0.62
2級	3238	206	6.4%	342	10.6%	1.66
1級	2744	24	0.9%	88	3.2%	3.67
合計	7250	597	8.2%	644	8.9%	1.08

〈表14〉 J-CLID所収N表に基づいた各難易度の語彙数等の比較（初級Ⅱ vs. 第二冊）

N表 難易度	N表 総語数	[日] みんな日：初級Ⅱ		[中] 新経典：第二冊		語数比 [中]／[日]
		語数	割合	語数	割合	
初級前半	409	27	6.6%	18	4.4%	0.67
初級後半	747	172	23.0%	89	11.9%	0.52
中級前半	2151	399	18.6%	368	17.1%	0.92
中級後半	5845	132	2.3%	324	5.5%	2.45
上級前半	5721	13	0.2%	48	0.8%	3.69
上級後半	1412	4	0.3%	5	0.4%	1.25
合計	16285	747	4.6%	852	5.2%	1.14

〈表15〉は〈表1〉と〈表5〉のうち、『みんな日』の「中級Ⅰ」と『新経典』の「第三冊」の列をピックアップして並べたもので、〈表16〉は〈表2〉と〈表6〉の同列をピックアップして並べたも

のである。級・難易度ありの語彙数は明らかに『新経典』に多い。特に中級後半以上の語彙は明らかに『新経典』の方が多い。

〈表15〉J-CLID所収V表に基づいた各難易度の語彙数等の比較（中級Ⅰ vs. 第三冊）

V表 旧基準	V表 総語数	[日] みんな：中級Ⅰ		[中] 新経典：第三冊		語数比 [中]／[日]
		語数	割合	語数	割合	
4級	674	10	1.5%	8	1.2%	0.80
3級	594	49	8.3%	30	5.1%	0.61
2級	3238	322	9.9%	408	12.6%	1.27
1級	2744	53	1.9%	221	8.1%	4.17
合計	7250	434	6.0%	667	9.2%	1.54

〈表16〉J-CLID所収N表に基づいた各難易度の語彙数等の比較（中級Ⅰ vs. 第三冊）

N表 難易度	N表 総語数	[日] みんな：中級Ⅰ		[中] 新経典：第三冊		語数比 [中]／[日]
		語数	割合	語数	割合	
初級前半	409	3	0.7%	1	0.2%	0.33
初級後半	747	43	5.8%	14	1.9%	0.33
中級前半	2151	243	11.3%	176	8.2%	0.72
中級後半	5845	251	4.3%	504	8.6%	2.01
上級前半	5721	48	0.8%	283	5.0%	5.90
上級後半	1412	5	0.4%	26	1.8%	5.20
合計	16285	593	3.6%	1004	6.2%	1.69

〈表17〉は〈表1〉と〈表5〉のうち、『みんな』の「中級Ⅱ」と『新経典』の「第四冊」の列をピックアップして並べたもので、〈表18〉は〈表2〉と〈表6〉の同列をピックアップして並べたものである。級・難易度ありの語彙数は明らかに『みんな』の方が多い。どの級の語彙数も、『みんな』は『新経典』より多く、特に中級後半前後で最も差が大きい。

〈表17〉J-CLID所収V表に基づいた各難易度の語彙数等の比較（中級Ⅱ vs. 第四冊）

V表 旧基準	V表 総語数	[日] みんな：中級Ⅱ		[中] 新経典：第四冊		語数比 [中]／[日]
		語数	割合	語数	割合	
4級	674	6	0.9%	2	0.3%	0.33

3級	594	22	3.7%	16	2.7%	0.73
2級	3238	673	20.8%	265	8.2%	0.39
1級	2744	336	12.2%	228	8.3%	0.68
合計	7250	1037	14.3%	511	7.1%	0.49

〈表18〉J-CLID所収N表に基づいた各難易度の語彙数等の比較（中級Ⅱ vs. 第四冊）

N表 難易度	N表 総語数	[日] みんな：中級Ⅱ		[中] 新経典：第四冊		語数比 [中]／[日]
		語数	割合	語数	割合	
初級前半	409	2	0.5%	0	0.0%	0.00
初級後半	747	20	2.7%	5	0.7%	0.25
中級前半	2151	260	12.1%	81	3.8%	0.31
中級後半	5845	941	16.1%	430	7.4%	0.46
上級前半	5721	383	6.7%	355	6.2%	0.93
上級後半	1412	42	3.0%	52	3.7%	1.24
合計	16285	1648	10.1%	923	5.7%	0.56

以上をまとめると、『みんな』と『新経典』とで、全体的には級・難易度ありの語彙の収録数はほぼ変わらないが、語彙学習の段階性には大きな違いがある。『みんな』では、学習段階が進むにつれて語彙数も徐々に増加していく。これに対して『新経典』では、どの段階においても学習語彙数はほぼ一定している。また、『みんな』では初級語彙から中級語彙へ緩やかにシフトしていくのに対して、『新経典』では全体的に語彙難易度が『みんな』より高いといえる。

5. 2. 語彙の専門性

〈表19〉は〈表3〉と〈表7〉のうち「合計」列をピックアップして並べたもので、〈表20〉は〈表4〉と〈表8〉のうち「合計」列をピックアップして並べたものである。〈表19〉〈表20〉からわかるように、専門性ありの語彙数については『みんな』と『新経典』はほぼ同じ程度で、分野別にも大差は見られない。

〈表19〉J-CLID所収V表に基づいた各分野の語彙数等の比較（全体）

V表 領域	V表 総語数	[日] みんな：全冊		[中] 新経典：全冊		語数比 [中]／[日]
		語数	割合	語数	割合	
人文・芸術	10025	976	9.7%	1053	10.5%	1.08

社会科学	8405	1073	12. 8%	1029	12. 2%	0. 96
理学・工学	7334	965	13. 2%	941	12. 8%	0. 98
生物・医学	6310	922	14. 6%	935	14. 8%	1. 01
全分野	20220	1933	9. 6%	1954	9. 7%	1. 01

〈表20〉J-CLID所収K表に基づいた各分野の語彙数等の比較（全体）

K表 教科	K表 総語数	〔日〕 みんな：全冊		〔中〕 新経典：全冊		語数比 〔中〕／〔日〕
		語数	割合	語数	割合	
国語	11803	1258	10. 7%	1325	11. 2%	1. 05
数学	2136	407	19. 1%	386	18. 1%	0. 95
理科	6718	754	11. 2%	705	10. 5%	0. 94
社会	13338	1036	7. 8%	977	7. 3%	0. 94
外国語	3369	958	28. 4%	903	26. 8%	0. 94
技術家庭	6163	1133	18. 4%	1024	16. 6%	0. 90
芸術	8656	894	10. 3%	899	10. 4%	1. 01
保健体育	3745	973	26. 0%	937	25. 0%	0. 96
情報	2668	707	26. 5%	651	24. 4%	0. 92
生活	473	272	57. 5%	254	53. 7%	0. 93
全教科	18737	1282	6. 8%	1166	6. 2%	0. 91

次に、『みんな』と『新経典』の各冊の比較をしてみる。〈表21〉は〈表3〉と〈表7〉のうち、『みんな』の「初級Ⅰ」と『新経典』の「第一冊」の列をピックアップして並べたもので、〈表22〉は〈表4〉と〈表8〉の同列をピックアップして並べたものである。〈表21〉〈表22〉からわかるように、全ての分野において、専門性ありの語彙数は『新経典』のほうが多い。

〈表21〉J-CLID所収V表に基づいた各分野の語彙数等の比較（初級Ⅰ vs. 第一冊）

V表 領域	V表 総語数	〔日〕 みんな：初級Ⅰ		〔中〕 新経典：第一冊		語数比 〔中〕／〔日〕
		語数	割合	語数	割合	
人文・芸術	10025	98	1. 0%	134	1. 3%	1. 37
社会科学	8405	97	1. 2%	158	1. 9%	1. 63
理学・工学	7334	126	1. 7%	171	2. 3%	1. 36

生物・医学	6310	109	1.7%	172	2.7%	1.58
全分野	20220	254	1.3%	345	1.7%	1.36

〈表22〉J-CLID所収K表に基づいた各教科の語彙数等の比較（初級Ⅰ vs. 第一冊）

K表 教科	K表 総語数	[日] みんな：初級Ⅰ		[中] 新経典：第一冊		語数比 [中]／[日]
		語数	割合	語数	割合	
国語	11803	292	2.5%	394	3.3%	1.35
数学	2136	107	5.0%	147	6.9%	1.37
理科	6718	120	1.8%	174	2.6%	1.45
社会	13338	141	1.1%	195	1.5%	1.38
外国語	3369	255	7.6%	339	10.1%	1.33
技術家庭	6163	200	3.2%	276	4.5%	1.38
芸術	8656	193	2.2%	256	3.0%	1.33
保健体育	3745	163	4.4%	271	7.2%	1.66
情報	2668	118	4.4%	171	6.4%	1.45
生活	473	136	28.8%	163	34.5%	1.20
全教科	18737	212	1.1%	282	1.5%	1.33

〈表23〉は〈表3〉と〈表7〉のうち、『みんな』の「初級Ⅱ」と『新経典』の「第二冊」の列をピックアップして並べたもので、〈表24〉は〈表4〉と〈表8〉の同列をピックアップして並べたものである。〈表23〉〈表24〉からわかるように、専門性ありの語彙数はK表ではほぼ同程度だが、V表では『新経典』のほうがやや多めである。小中高校では学ばれない専門性が高い語彙を多く収録している可能性が考えられる。分野別に見てみると、V表では「社会科学」領域の語彙、K表では「情報」教科の語彙が多めである。

〈表23〉J-CLID所収V表に基づいた各分野の語彙数等の比較（初級Ⅱ vs. 第二冊）

V表 領域	V表 総語数	[日] みんな：初級Ⅱ		[中] 新経典：第二冊		語数比 [中]／[日]
		語数	割合	語数	割合	
人文・芸術	10025	123	1.2%	166	1.7%	1.35
社会科学	8405	115	1.4%	201	2.4%	1.75
理学・工学	7334	135	1.8%	190	2.6%	1.41

生物・医学	6310	132	2.1%	176	2.8%	1.33
全分野	20220	279	1.4%	365	1.8%	1.31

〈表24〉J-CLID所収K表に基づいた各分野の語彙数等の比較（初級Ⅱ vs. 第二冊）

K表 教科	K表 総語数	[日] みんな：初級Ⅱ		[中] 新経典：第二冊		語数比 [中]／[日]
		語数	割合	語数	割合	
国語	11803	263	2.2%	278	2.4%	1.06
数学	2136	103	4.8%	93	4.4%	0.90
理科	6718	158	2.4%	122	1.8%	0.77
社会	13338	162	1.2%	147	1.1%	0.91
外国語	3369	193	5.7%	215	6.4%	1.11
技術家庭	6163	227	3.7%	220	3.6%	0.97
芸術	8656	159	1.8%	143	1.7%	0.90
保健体育	3745	212	5.7%	220	5.9%	1.04
情報	2668	125	4.7%	163	6.1%	1.30
生活	473	83	17.5%	51	10.8%	0.61
全教科	18737	231	1.2%	221	1.2%	0.96

〈表25〉は〈表3〉と〈表7〉のうち、『みんな』の「中級Ⅰ」と『新経典』の「第三冊」の列をピックアップして並べたもので、〈表26〉は〈表4〉と〈表8〉の同列をピックアップして並べたものである。〈表25〉〈表26〉からわかるように、全ての分野において、専門性ありの語彙数は明らかに『新経典』の方が多い。特にV表の「人文・芸術」「生物・医学」領域、K表の「社会」「芸術」教科の語彙が多めである。

〈表25〉J-CLID所収V表に基づいた各分野の語彙数等の比較（中級Ⅰ vs. 第三冊）

V表 領域	V表 総語数	[日] みんな：中級Ⅰ		[中] 新経典：第三冊		語数比 [中]／[日]
		語数	割合	語数	割合	
人文・芸術	10025	165	1.7%	393	3.9%	2.38
社会科学	8405	192	2.3%	322	3.8%	1.68
理学・工学	7334	174	2.4%	281	3.8%	1.61
生物・医学	6310	146	2.3%	314	5.0%	2.15
全分野	20220	318	1.6%	618	3.1%	1.94

〈表26〉J-CLID所収K表に基づいた各分野の語彙数等の比較（中級Ⅰ vs. 第三冊）

K表 教科	K表 総語数	[日] みんな：中級Ⅰ		[中] 新経典：第三冊		語数比 [中]／[日]
		語数	割合	語数	割合	
国語	11803	212	1.8%	357	3.0%	1.68
数学	2136	55	2.6%	78	3.7%	1.42
理科	6718	122	1.8%	210	3.1%	1.72
社会	13338	171	1.3%	346	2.6%	2.02
外国語	3369	173	5.1%	205	6.1%	1.18
技術家庭	6163	183	3.0%	312	5.1%	1.70
芸術	8656	143	1.7%	287	3.3%	2.01
保健体育	3745	156	4.2%	268	7.2%	1.72
情報	2668	139	5.2%	185	6.9%	1.33
生活	473	23	4.9%	31	6.6%	1.35
全教科	18737	214	1.1%	375	2.0%	1.75

〈表27〉は〈表3〉と〈表7〉のうち、『みんな』の「中級Ⅱ」と『新経典』の「第四冊」の列をピックアップして並べたもので、〈表28〉は〈表4〉と〈表8〉の同列をピックアップして並べたものである。〈表27〉〈表28〉からわかるように、全ての分野において、専門性ありの語彙数は圧倒的に『みんな』のほうが多い。

〈表27〉J-CLID所収V表に基づいた各分野の語彙数等の比較（中級Ⅱ vs. 第四冊）

V表 領域	V表 総語数	[日] みんな：中級Ⅱ		[中] 新経典：第四冊		語数比 [中]／[日]
		語数	割合	語数	割合	
人文・芸術	10025	590	5.9%	360	3.6%	0.61
社会科学	8405	669	8.0%	348	4.1%	0.52
理学・工学	7334	530	7.2%	299	4.1%	0.56
生物・医学	6310	535	8.5%	273	4.3%	0.51
全分野	20220	1082	5.4%	626	3.1%	0.58

〈表28〉J-CLID所収K表に基づいた各分野の語彙数等の比較（中級Ⅱ vs. 第四冊）

K表 教科	K表 総語数	[日] みんな：中級Ⅱ		[中] 新経典：第四冊		語数比 [中]／[日]
		語数	割合	語数	割合	
国語	11803	491	4. 2%	296	2. 5%	0. 60
数学	2136	142	6. 6%	68	3. 2%	0. 48
理科	6718	354	5. 3%	199	3. 0%	0. 56
社会	13338	562	4. 2%	289	2. 2%	0. 51
外国語	3369	337	10. 0%	144	4. 3%	0. 43
技術家庭	6163	523	8. 5%	216	3. 5%	0. 41
芸術	8656	399	4. 6%	213	2. 5%	0. 53
保健体育	3745	442	11. 8%	178	4. 8%	0. 40
情報	2668	325	12. 2%	132	4. 9%	0. 41
生活	473	30	6. 3%	9	1. 9%	0. 30
全教科	18737	625	3. 3%	288	1. 5%	0. 46

以上をまとめると、『みんな』と『新経典』で、全体的には専門性ありの語彙の収録数に大差は見られないが、それぞれの学習段階においては傾向の違いが見られる。『みんな』では、学習段階が進むにつれて語彙の専門性も徐々に増加していき、中級Ⅱでは一気に専門性が上がる。対して『新経典』では、学習段階による語彙専門性の変化は小さく、第三冊から語彙の専門性が少し上がる程度にとどまっている。

6. おわりに

本稿では統合型日本語語彙データベースJ-CLIDを用いて、日本で出版された日本語教科書『みんな』と中国で出版された日本語教科書『新経典』との比較分析を行った。その結論は以下のようにまとめられる。

- ア. 収録語彙の数について、全四冊の『みんな』と全四冊の『新経典』は同程度の数の語彙を収録している。ただ、『みんな』では学習段階に合わせて語彙の量を増やしていくのに対して、『新経典』では学習段階を問わず語彙の数は一定している。
- イ. 収録語彙の難易度について、『みんな』では学習段階に応じて緩やかに難易度を上げていくのに対して、『新経典』では初級の段階から難易度の高い語彙を多く導入している。また、同じ学習段階においては『みんな』より『新経典』の方が語彙の難易度が高い。

ウ．収録語彙の専門性について、『みんな日』では学習段階が進むにつれて専門語彙の数が徐々に増えていき、中級Ⅱになるとさらに急増する。対して『新経典』では、初級の段階から専門性の高い語彙を多めに導入している。第三冊から専門性が少し上がる程度で、学習段階によって専門性ありの語彙の数に大きな変化は見られない。

以上の結論から、日本語教育に対する日本と中国の方針の違いが覗える。日本で出版された日本語教科書は、日本在住の外国人のための日本語教育を想定したもので、日々の生活でのコミュニケーションなど実用性を重視するものである。これは『みんな日』初級Ⅰのまえがきからも読み取れる。

『みんなの日本語』の対象は、職場、家庭、学校、地域などで日本語によるコミュニケーションを今すぐ必要としている外国人のみなさんです。

『みんな日』初級Ⅰ「まえがき」より

一方、中国で出版された日本語教科書は、中国在住の学習者（中国語母語話者）のための日本語教育を想定したもので、日本語能力試験等の資格取得、または論文作成や翻訳といった応用力が求められている。そのため、『新経典』では早い段階から多くの語彙を取り入れることで、学習者の日本語スキルを伸ばそうとしているのかもしれない。

また、漢字圏出身の学習者にとって、漢字語彙の学習は早い段階で実現できるという特別な事情があり、高難易度の語彙、専門性の高い語彙の早期導入が可能になったとも考えられる。以下〈表29〉はJ-CLID所収J表に基づいて、『みんな日』と『新経典』の収録語彙で中国語母語話者による漢字語彙の転移が可能⁵な語彙数を比較したものである。初級の段階から『新経典』は『みんな日』より転移可能な漢字語彙の割合が高く、四冊目でやっと同程度になっていることがわかる。

〈表29〉J-CLID所収J表で漢字語彙の転移が可能な語彙数の比較

みんな日				新経典			
初出	転移可能語数	総語数	割合	初出	転移可能語数	総語数	割合
初級Ⅰ	198	959	20.7%	第一冊	333	1244	26.8%
初級Ⅱ	237	910	26.0%	第二冊	336	1045	32.2%
中級Ⅰ	247	745	33.2%	第三冊	494	1238	39.9%
中級Ⅱ	859	2080	41.3%	第四冊	493	1249	39.5%

⁵ 「意味対応（日__中）」欄が「φ」以外のもの。

本稿では日本と中国の教科書の比較にとどまっているが、今後は他の国・地域（特に非漢字圏）で出版された教科書との比較分析も試みたい。また、J-CLIDの有効語彙の認定精度を高めていかなければならないという課題もあるが、今後J-CLIDの所収コンテンツを充実させることで認定精度の更なる向上を図りたい。

〈参考文献〉

- 英保すずな・内藤裕子・渡嘉敷恭子（2014）「国内外の日本語教育機関における初級日本語教材の実態調査・ニーズ調査と結果分析」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』24号
- 伊藤俊也・岡本輝彦（2009）「日本企業に就職を希望する学生が学ばなければならない語彙とは」『Polyglossia』17号
- 国際交流基金（2023）「日本語教育 国・地域別情報 中国（2023年度）」
https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2023/index.html#e_asia
（参照日：2024年9月27日）
- 国立国語研究所（2011）「特定領域研究『日本語コーパス』言語政策班最終成果 CD-ROM」所収「教科書コーパス語彙表Ver 1.0」（参照日：2019年7月5日）
<https://repository.ninjal.ac.jp/records/3301>
- スリーエーネットワーク（2012）『みんなの日本語 中級Ⅰ』（初版）
- スリーエーネットワーク（2012）『みんなの日本語 中級Ⅱ』（初版）
- スリーエーネットワーク（2012）『みんなの日本語 初級Ⅰ 翻訳・文法解説 英語版』（第2版）
- スリーエーネットワーク（2015）『みんなの日本語 初級Ⅰ』（第2版）
- スリーエーネットワーク（2015）『みんなの日本語 初級Ⅱ』（第2版）
- スリーエーネットワーク（2016）『みんなの日本語 中級Ⅱ 翻訳・文法解説 英語版』（初版）
- スリーエーネットワーク（2018）『みんなの日本語 中級Ⅰ 翻訳・文法解説 中国語版』（初版）
- スリーエーネットワーク（2019）『みんなの日本語 初級Ⅱ 翻訳・文法解説 英語版』（第2版）
- 田中牧郎・近藤明日子（2011）「教科書コーパス語彙表」『言語政策に役立つ，コーパスを用いた語彙表・漢字表等お作成と活用』国立国語研究所
- 趙牧耘・高中公男（2019）「中国人学生に対する日本語教育の問題点」『事業創造大学院大学紀要』10巻1号
- 日本語学習辞書支援グループ（2015）「日本語教育語彙表」（ダウンロード版Ver 2.8.3）
<https://jreadability.net/jev/>（参照日：2022年4月13日）
- 松下達彦（2011）「日本語を読むための語彙データベース（VDRJ）（研究用）」（Ver. 1.1）
<http://www17408ui.sakura.ne.jp/tatsum/database.html>（参照日：2024年4月3日）
- 松下達彦・陳夢夏・王雪竹・陳林柯（2017）「日中対照漢字語データベース」（Version 2.00）

<http://www17408ui.sakura.ne.jp/tatsum/database.html>（参照日：2024年5月30日）

松本秀輔（2020）「中級日本語教科書に取り上げられる副詞について」『同志社大学日本語・日本文学研究』17号

劉利国・宮偉ほか（2014）『新経典日本語基礎教程 第二冊』（第1版）外語教学与研究出版社

劉利国・宮偉・于飛ほか（2019）『新経典日本語基礎教程 第四冊』（第2版）外語教学与研究出版社

劉利国・宮偉・于飛ほか（2021）『新経典日本語基礎教程 第一冊』（第2版）外語教学与研究出版社

劉利国・宮偉・于飛ほか（2021）『新経典日本語基礎教程 第三冊』（第2版）外語教学与研究出版社

呂建輝（2024）「データベース構築ツールCSV Carpenter」プロジェクトVocabulary Battlers公式HP <https://vocabulary-battlers.wixsite.com/japan/csvcarpenter>

呂建輝（2024）「統合型日本語語彙データベースJ-CLID:C4の構築」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』58号

呂建輝・片山鮎子（2024）「統合型日本語語彙データベースJ-CLID:C4」（2024年9月現在非公開）

謝辞 本研究は科研費挑戦的研究（萌芽）（課題番号：23K17595）による助成を受けたものである。